

水辺の 生物



コジュリン (小樹林)

スズメ目ホオジロ科

写真提供：堀内洋助氏

校閲：鈴木弘行氏

全 長約 15cm。オスの夏羽は頭と喉が黒く、黒い頭巾を被っているように見えることから、“なべかむり”などの異名もある。後頭から胸横は赤茶色、胸と腹は淡い灰褐色で、背と腰には黒と赤茶色のたてじま模様がある。冬羽のオスとメスは似ていて、頭頂部と目から頬にかけての幅の広い紋は黒っぽく、眉斑と頬線はクリーム色をしている。

中国東北地方、ロシア・ウスリー地方、日本、朝鮮半島に分布が限定されており、冬には中国東部にも生息する。日本では、本州の中部と北部、九州の一部（熊本）で繁殖が確認されているが局地的である。

湖沼周辺や河川敷の草地など開けた環境に生息し、昆虫などの動物質のものや草地の植物の種子などを食べる。オスは5~8月頃、丈の高い草の上などでピーツ、クチューピーなどとさえずり、縄張りをつくる。繁殖は6月上旬~7月上旬で、イネ科植物の根元等に枯れ草などで椀形の巣をつくり、3~5個の卵を産む。抱卵期間は12~14日、育雛期間は11~12日、いずれも雌雄交替で行う。巣立ち後、約20日で幼鳥は独立する。

冬期は本州の中部以南のアシ原や草原で小さな群れで生活する。ちょっとした植生の構成の違いや高さの変化でも繁殖を放棄することがあり、河川敷などの自然に近い草原の減少で、繁殖に適した環境は失われやすい。

生息数は全体として減少傾向にあり、北海道では近年確実な記録が無く、繁殖地のうち、霧ヶ峰や富士では消失した。環境省の絶滅危惧Ⅱ類(VU)(絶滅の危険が増大している種)に指定されている。

参考文献：『新版鳥類原色大図説』黒田長禮著 講談社 1980年

『日本産鳥類図鑑』東海大学出版会 1981年

『日本の野鳥 590』平凡社 2000年

『日本鳥類目録』改訂第6版 日本鳥学会 2000年

『フィールドガイド 日本の野鳥』増補改訂17版 日本野鳥の会 2007年

環境省自然環境局生物多様性センター・絶滅危惧種情報ホームページ

これまでに紹介した「水辺の生物」のうち主なものを水資源機構ホームページに掲載しています
(トップページ右側「水辺の生物」をクリック)